

# 金融業界横断的なサイバーセキュリティ演習(Delta Wall VI)について

## 金融分野のサイバーセキュリティを巡る状況

- 世界各国において、大規模なサイバー攻撃が発生しており、攻撃手法は一層高度化・複雑化
- 我が国においても、サイバー攻撃による業務妨害、重要情報の窃取、金銭被害等の被害が発生している状況
- こうしたサイバー攻撃の脅威は、金融システムの安定に影響を及ぼしかねない大きなリスクとなっており、金融業界全体のインシデント対応能力の更なる向上が不可欠

## これまでの演習の概要

- ✓ 過去5回演習を実施。2016年度は77先・延べ約900人、2017年度は101先・延べ約1,400人、2018年度は105先・延べ約1,400人、2019年度は121先・延べ約2,000人、2020年度は114先・延べ約1,700人が参加。
- ✓ 参加金融機関の多くが規程類の見直しを実施・予定しているほか、社内及び外部組織との情報連携の強化に関する対応を実施・予定しており、本演習を通じて対応態勢の改善が図られている。

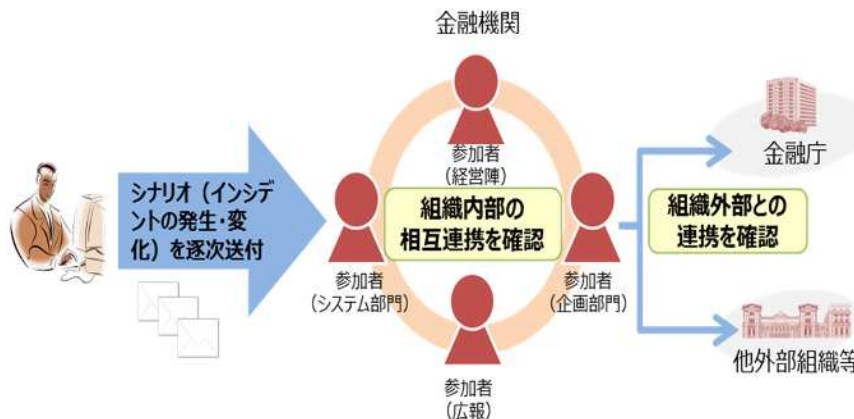
## 金融業界横断的なサイバーセキュリティ演習(Delta Wall VI)

- 2021年10月、**金融庁主催による6回目の「金融業界横断的なサイバーセキュリティ演習」(Delta Wall VI(注))を実施。**  
(注)Delta Wall: サイバーセキュリティ対策のカギとなる「自助」、「共助」、「公助」の3つの視点(Delta)+防御(Wall)
- **中小金融機関のカバレッジ拡大**の観点から、信金・信組及び顧客に影響を及ぼすインシデントが発生した資金移動業者の参加先数を拡大し、**約150先が参加。**
- 対応できなかった項目の自己分析結果(例:コンチプラン(Plan)の課題か対応(Do)の課題か)を提出することとし、**評価の要因を明確化**することで、演習効果を高める。
- 昨年度に引き続き、テレワーク環境下でのインシデント対応能力の向上を図るため、**参加金融機関は実際のテレワーク環境下で演習に参加。**

## 演習の特徴

- ✓ インシデント発生時における**初動対応、攻撃内容の調査等の技術的対応、情報連携、業務継続**等を確認
- ✓ 銀行では、インシデント対応時における**議論の内容や意思決定過程**を検証
- ✓ 経営層や多くの関係部署(システム部門、広報、営業部門等)が参加できるよう、**自職場参加方式**で実施
- ✓ 参加金融機関がPDCAサイクルを回しつつ、対応能力の向上を図れるよう、具体的な改善策や優良事例を示すなど、**事後評価に力点**
- ✓ 本演習の結果は、参加金融機関以外にも**業界全体にフィードバック**

## 演習スキーム



## 【演習シナリオの概要】

- **銀行**  
✓ (ブラインド方式のため非開示)
- **信金・信組**  
✓ 重要システムの異常による顧客影響が発生
- **証券・FX・資金移動業者・暗号資産交換業者等**  
✓ 取引システムへの不正アクセスにより、顧客資産の流出が発生
- **生命保険・損害保険・保険代理店・監査法人**  
✓ 顧客情報の漏えいが発生